

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300738		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム わたしの家 (1階・2階合同)		
所在地	静岡県富士市大淵352-2		
自己評価作成日	平成27年2月7日	評価結果市町村受理日	平成27年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2272300738-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&amp;jiyosyoCd=2272300738-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆったり・のんびり・自分らしく」を理念に、日々その人らしさを大切に支援しています。利用者  
に安心して過ごしていただけるよう日々心がけております。管理者が変更したことで、ご家族  
や利用者にご迷惑が起ころぬよう、職員間で情報の共有を常に行っております。今後も皆さん  
に「わたしの家」で良かったといってもらえる様職員一同頑張ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は隣接する病院より異動、昨年10月より着任しています。新管理者として挨拶に出向  
いた折、民生委員から「どうなっちゃったのかと思って…」との言葉がでるほど、運営推進会議  
は1回のみ、イキイキサロンなどの地域交流も滞ったままでした。事業所としてはこの停滞を  
払拭すべく、『研修によるケアの標準化』『個別カンファレンスの習慣化』に力を尽くし、現在も  
建て直しが図られています。家族アンケートでは「わがままな本人だけでも十分大変なのに家  
族にまで気遣ってくれ助かっている」、をはじめ高評価を得ており、改善向上に期待が湧きま  
す。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示している。新人職員には、入職時オリエンテーションにて説明をしている。	「自分らしく」に重点を置き、一人ひとりを知るところからはじめ、会議の中で個別カンファレンスを慣行しています。また事例検討することで「何をすることが自分らしいのか」を各職員に問うています。「のんびり、ゆったり」は毎日の暮らしで実現できていると管理者は感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入っている。地域で行われている、イキイキサロンでの催し物に参加している。	隣近所がないため地域リーダーとのつながりは特に大切とし、管理者交代では町内会長、民生委員に挨拶に出向いています。隣接する病院に園児が来訪する日は事業所も仲間に加えてもらっています。またハロウィン、クリスマス会には院内保育室の子ども達の訪問がありました。	イキイキサロンをはじめ地域活動が再開することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中・高校生の福祉体験の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度を目安に開催している。議題や、問題点については、職員間で話し合いを会議開催時に合わせて行っている。	本年度は計画通りにできず5回の実施に留まりましたが、今まで滞っていた地域との関係を省みて新たなスタートを切るための話し合いが成されています。また、その中で事業所から「27年度目標として地域との繋がりを深めていく、こちらから行事に出向く」ことを明言するに至っています。	年間計画の立案により隔月開催が成されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市行政には常に相談等あれば連絡を行うようにしている。(感染対策・事故報告等)	運営推進会議には市介護福祉課、地域包括支援センターから出席を得ており、「着任したばかりで大変でしょうが、連絡をもらえれば協力します」と理解ある温かい言葉がもらえ、精神的に助けられています。市が主催する研修会、グループホーム連絡会も足を運んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り等で日常の振り返りを行い、個々に合った対応方法など話合っている。身体拘束ゼロ宣言をしている。	日中は玄関施錠はなく、エレベーターロックもありません。スピーチロックは未熟な面があり「これも該当するのか」との感覚の職員もいて、気になる発語にはその場で注意しています。向上点を知るだけに委員会活動を復活させ、また外部研修への意欲も膨らんでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、またその報告をチーム会議の中で行い虐待防止の意識を高めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、またその報告をチーム会議の中で伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を頂き十分な説明をしている。また、質問があれば連絡を頂ける様お伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口にアンケートBOXを設け、その都度申し送りにて職員に反映している。法人としてもご家族にアンケートを送付し検討後、お答えをしている。	家族会を病院ホールにて執り行い、職員と家族、利用者合わせ総勢51名が顔を合わせました。介護報酬改定の説明、意見交換とともに、食事も一緒に楽しみました。遠方に住む家族が多いため、本人の様子は担当職員が手書きで便利にしたため写真を添えて郵送しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月運営会議、チーム会議にて意見や提案を聞く機会をつくっている。	個人面談はこれまではありませんでしたが、着任後は声をかけ随時おこない、7名の退職希望者のほとんどが残ってくれることになり安堵しています。新たな取組みとして個人目標を作成し、また委員会や係を一新し、責任と権限を明瞭にさせています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に目標を設定し評価を行い、面接を通して目標の見直しを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促し、勤務表作成時に組み込めるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会の会議、研修に参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活状況の把握に努め、職員に伝達し入居時より安心して過ごして頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日々の状態を伝え、意見を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況について、ご家族と情報共有を行いながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重するよう、本人の声を聞いた上で情報の共有を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お便りの発行を行っている。日々の様子を担当職員より報告している。臨時の受診や緊急時には電話にて早急に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはゆっくり過ごせる環境づくりを行っている。	面会については基本的にはオープンですが、友人、知人については家族に意向を確認しています。また、「馴染みの場所へ出かけたい」といった要望もまずは家族に相談して進めています。趣味にしていたことは押しつけず近くで職員がおこなうことで関心が向くよう工夫しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間にて話しやすい関係作りや食事がしやすい席等の配置を工夫をしている、介助が必要な方は職員とゆったりとコミュニケーションが取れるように心がけている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族がホームに挨拶に来てくださったり、職員に会いに来て下さり入居時の話や近況を話す事があります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴や食事の嗜好、買い物や行きたい場所等を何気ない会話の中から引き出せる関係作りをしており、困難な利用者に対してはご家族から以前好きだった事等職員が面会時に聞き取りを行っている。	「わからない」「ことばが返ってこない」ことを理由にせず、「言葉にならなくても表情など非言語から気持ちを推し量ろう」と指導しています。職員の濱岡さんが「はまちゃんです」と自己紹介し続け、稀にしか声にならない人が「はまちゃん」といつてくれたという嬉しいエピソードもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族より詳細に生活歴や生活環境の聞き取りを行っている。サービス利用の経過については相談員やケアマネージャーより経過を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録にて日中の活動を記載して職員間情報共有を行っており、持てる力を引き出せるようにケアプランに盛り込んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族がホームでどのような生活を希望しているのか介護計画書作成時に聞き取りを行い計画書の作成を行っている。	利用者のためだけでなく職員もプランを通じて実力を上げてほしいと願い、諸所変更しています。サービス内容を通し番号で連動するように『生活記録』の書式を変え、また『場面』という項目を追加することで新たな課題も書込め、プラン変更の判断基準にもなりました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの気づきをカンファレンスにて話し合い、カンファレンスシートにて情報共有と実践を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の湖山リハビリテーション病院や訪問看護と連携を取りご利用者様の体調面やご家族との連絡や相談に柔軟に対応するように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育室の子供達や地域の児童クラブの子供達とのふれあいを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族、ご本人の同意を得て受診し、他科受診の際はご家族に情報提供に努めている。	医療連携体制が整い全員が協力医へ変更しており、月に一度の往診は来年度から月2回に増えます。受診支援は職員がおこなっていますが、家族に同行してもらえよう連絡しています。また家族単独でも適切な診断を仰げるよう『医師伝達表』を備えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	二週間に1度訪問看護が入った際は、職員が訪問看護記録に現在の状況や相談したいことをあらかじめ記載し訪問看護師に見て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は利用者入院先にお見舞いに行き入院先の看護師や相談員と話をし早期退院や状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医よりご家族へ職員も話し合いに入り、終末期の方針を決め終末期のプランの作成を行う、地域関係者と支援に取り組める事が出来る事は今後の課題でもある。	管理者が病院勤務のなかで看取りチームの経験があったことで、点滴の負荷や処置の苦しさを職員に説明、医師・訪問看護とも連動して「水が飲めなかったらどうするのか」「定時の体位変換」と具体的な取決めを共有のうえ、エンゼルケアまで及んで2名を無事お見送りしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の事故発生マニュアルがあり、職員に指導をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っており、併設の湖山リハビリテーション病院にて防災訓練や研修があり参加している	本年度の実績は1回だったため、次年度は年間計画を遵守しておこなうよう、防災委員を軸としてマニュアルづくりから始めていきたい考えです。消防機器取扱い、避難経路の確認、夜間想定を盛り込み早急の運用を目指しています。	年2回の法定訓練実施は当然のこととして、消防署員立ち合いの下、現実的な課題が把握できることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者様の立場、生活暦をもつて対応するよう日々、申し送り等で職員に伝達教育しています。	①お客様への呼称は「さん」付けを徹底する②心地よい食事空間を提供する姿勢を持つ③介護職としてのコミュニケーション能力を上げる④聞いていて不快に思ったことはしっかり伝えていく⑤お互い注意し合い受け入れる、が定められ実践されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるような話しかけを行うよう意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースと状態を考慮し希望が伝えられる環境作りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に希望の洋服を選んで頂いたり、併設の病院の美容室を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食材は別の物を準備し、食べて頂くこともある。また、可能な限り食事の準備片付けを利用者と共に行っている。	人数は限られていますが、食器拭きや盛り付けに携わってもらうよう支援しています。希望がある利用者とは食材の買い出しにもかけています。誕生日にはお刺身やケーキで祝い、クリスマスは全員がロールケーキのデコレーションに胸躍らせました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、水分量の把握に努め、安定して摂れなくなった場合は早めに主治医に相談連絡を行ってその人にあつた方法をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い清潔に努めている。また本人の力に応じた対応も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを知り、本人の要望に合わせて対応、またオムツのアイテムの使い分けを行っている。	パターン把握のために表を作成し、個々の誘導時間を決めています。「車椅子に乗っているから」「自分からいけないから」を言い訳としないように、日中はトイレでの排泄をと決めています。夜間は睡眠を妨害しない方法としてオムツという選択肢ももっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カスピ海ヨーグルト使用、食事量や水分量の把握に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿った対応ができています。	浴剤の芳香や職員と一対一のおしゃべりを味わうほか、冬季はゆっくり湯船に浸かって温まれるよう職員二人介助でおこなっています。午後を入浴時間として湯は毎日張っていますが、昼間の入浴が慣れないうちは夜勤者が出勤する時間に遅番と協力して対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や本人の状況に合わせて休息の時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認、薬のセット確認、内服のチェックを行い確実に内服できるようにしている。訪問服薬指導との連絡、相談、報告も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の状況や、希望に耳を傾け、その方の気分転換になることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や外出企画を実行している。	感染症の時期でもあり、1月は出かけられていません。事業所周辺には住宅はありませんが、病院周囲は花も植えてあり富士山も望めます。来年度は年間行事計画を作成して定期的に地域行事へ関わることを予定しています。	散策ができない場合、外気浴だけでも位置付けることを期待します。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時に本人の希望を聞き買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の状況により支援している。手紙のやり取りはスムーズになるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを行い、職員と共に作成した。	混乱を避けるために動線にかかるところにモノを置かないようにし、また感染症対策の清掃方法を研修で学び浸透させているため、清浄な空気が流れています。①節電は日差しが少ない日は暗い印象が否めない②和室は昼食後に横になる人が使う程度との2点は検討材としています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファや、ベンチを置きくつろげる環境作りをおこなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を配置し、ご家族の写真を飾るなどご家族と共に工夫している。茶碗、箸、コップ等も本人が使用していた物を持ってきて頂き使用している。	カーテンやベッドは前利用者が置いていったものもありますが、持ち込みを奨励しています。冬季に炬燵が定番との人は寛ぎスペースとして設置したり、ベッドからの転倒予防に畳を敷いて布団での寝起きをしている人も居ます。観葉植物、大型テレビや血圧計、ソファも視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりが不安無く過ごせるよう、職員が寄り添うことを日々心がけている。		